

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	22-098	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Association Between Acute Alcohol Use and Firearm-Involved Suicide in the United States アメリカにおける急性アルコール摂取と銃を使用した自殺との関連		
執筆者		
Lange S, Jiang H, Kaplan MS, Kim KV, Rehm J.		
掲載誌		
JAMA Netw Open. 2023 Mar 1;6(3):e235248. doi: 10.1001/jamanetworkopen.2023.5248.		
キーワード	PMID	
急性アルコール摂取、銃による自殺、血中アルコール濃度、横断研究	36988957	
要旨		
<p>目的: 急性アルコール摂取と自殺方法として銃を使用する確率との用量反応関係は不明である。本研究はアルコール摂取量と自殺方法として銃を使用する確率との関連を評価した。</p> <p>方法: 対象は米国全国暴力死報告システムデータにおける血中アルコール濃度 (BAC; 0.01g/dL 以上) が陽性であった 18 歳以上の自殺死者であり、統計解析は 2003 年 1 月から 2020 年 12 月までのデータを用いて、除外基準は BAC 0.6g/dL 以上とした。主要評価項目は死後の毒物学的検査により確認された急性アルコール使用を暴露因子として、自殺の方法が銃使用の確率を他のすべての自殺方法と比較した。解析は性別に一般化ロジスティック回帰モデルを用いて線形、二次、および非線形の関連を検討し、非線形関連は分割立方多項式を使用してモデル化した。すべてのモデルは、年齢、婚姻状況、教育レベル、および人種と民族性の調整を行なった。</p> <p>結果: BAC 陽性である男性自殺者は 45,959 人 (平均[SD]年齢、42.6[14.8]歳)、女性自殺者は 12,136 人 (44.2[13.8]歳) であった。そのうち、男性自殺者 24,720 人 (53.8%)、女性自殺者 3,599 人 (29.7%) が自殺方法として銃を使用していた。アルコール摂取により、自殺方法として銃を使用する確率は、男性自殺者では確率が約 0.50 から始まり約 0.75 まで増加した。女性自殺者では確率は約 0.30 から始まり約 0.55 まで増加した。男性および女性の自殺者の両方で、用量反応曲線は逆 U 字型であった。銃を自殺方法とする確率は BAC 増加とともに増加し (男性自殺者、589 人[1.3%]; 女性自殺者、754 人[6.2%])、BAC が男性約 0.40g/dL、女性約 0.30g/dL に達した時点で確率は減少に転じた。</p> <p>結論: 自殺方法として銃を使用する確率はアルコール摂取量が増加するにつれて増加し、ある BAC に達すると確率が減少し始めることが示唆された。本研究はアルコールの多量摂取予防を目指した取り組みによって、自殺死亡率、特に銃を使用した自殺を減少させることに役立つ可能性がある。</p>		